

最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

29年10～12月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、全ての月で対前年を上回った。百貨店ではインバウンド需要が引き続き好調であり、また、順調に気温が低下したことから季節衣料品が伸長し、売上は12ヶ月連続のプラスとなった。スーパーでは、気温低下で季節衣料品や鍋物商材に人気が集まり、10月の台風以降野菜の価格高騰が続いたこともあり、11月以降売上額が増加している。

コンビニ販売額や家電販売額は増加傾向にあり、新車販売台数は、前年同月比で3ヶ月ぶりに増加した。個人消費は、増加している。

月別概況

10月：(平年差) 平均気温 -0.6°C 、降水量 $+282.9\%$

10月は、中国で前年9月にあった祝日が今年は10月にずれ大型連休となり、韓国でも秋夕（旧盆休暇）が過去最長の大型連休となったこと等から訪日客が増え、インバウンド需要が好調であった。

百貨店では、インバウンド需要による化粧品が売上を牽引したほか、気温の低下に伴いコートやセーターといった秋物衣料品も好調で、売上高は前年同月を上回った。さらに関西地域計では、外国人旅行者への免税売上高が過去最高を更新した（日本銀行大阪支店）。

スーパーでは、2週連続の台風直撃が客足に響き、さらに、野菜相場が過去10年で最低となり苦戦し、売上は前年同月を下回った。一方で、気温の低下に加え野菜の価格が安いこともあり鍋物の人気が高まり鍋物商材（鍋用肉、鍋つゆ、練物）は好調に推移した。5月からのアニサキス（寄生虫の一種）報道の影響による水産品の売上減少は落ち着きを見せ始めている。

11月：(平年差) 平均気温 -1.0°C 、降水量 -16.3%

11月は、紅葉シーズンが到来し訪日意欲を喚起された外国人観光客によるインバウンド需要は引き続き好調であった。また、中下旬は気温の低下により季節衣料に動きがみられた。

百貨店では、気温低下による防寒需要の高まりにより、ブルゾン、コート、ジャケット、手袋、マフラーといった冬物商材の動きが活発であり、引き続きインバウンド需要に伴う化粧品や時計などの高額商品も好調であり売上は前年を上回った。

スーパーでは、10月に苦しんだ野菜相場が少しずつ上げ基調に転じ、気温低下の影響で鍋物商材、カイロ、石油ファンヒーター、暖かいインナーなどが軒並み売上を伸ばし、既存店では前年の売上高を上回った。5月からのアニサキス報道による影響は収束を見せた。

12月：(平年差) 平均気温 -1.6°C 、降水量 -37.2%

12月は、クリスマスの日並びに恵まれなかったものの、クリスマス商戦は一定の盛り上がりを見せた。お歳暮は年々減少傾向が続くものの、予約販売のおせちは予約数が増加傾向にあり、堅調に推移した。

百貨店では、引き続きインバウンド需要が好調で、関西地域計では外国人旅行者への免税売上件数が過去最高を更新した（日本銀行大阪支店）。冬物衣料品を中心に防寒アイテムの手袋やマフラーも伸長し、売上は前年を上回り、12ヶ月連続プラスであった。

スーパーでは、食品が月後半から相場が高騰した影響もあり農産物が伸長し、また、月を通じて気温が低めに推移したことから、衣料品・住居関連品ともに季節品が堅調な動きとなり売上は前年を上回った。

百貨店A社

12月は、外国人旅行者や日本人富裕層への販売が好調であり、加えて中間層で、高くても良いものを購入したいという動きが顕著に見られ、売上は前年を上回った。日並びに恵まれなかったが、クリスマス商戦も好調であった。

紳士服：スーツの苦戦傾向が続くものの、ブルゾン、ジャケット、コート、セーター、靴などが好調で売上は前年同月を上回った。また、ブランドのロゴの入ったTシャツが外国人観光客に人気が高く、売上を伸長した。

婦人服：スーツで苦戦をしたものの、トレンドのダウンコートが牽引し、売上は前年同月を上回った。また、クリスマス商戦を中心に靴や小物類の売れ行きも好調であった。

子供服：幼児向け商品を中心に外国人旅行者、国内顧客の両方の需要があり、売上は前年同月を上回った。ランドセルについては、需要が年々早期化し、31年入学予定の下見の顧客がそろそろ出始めている。

宝飾・時計：外国人旅行者、国内顧客ともに好調で、時計や高額なジュエリーの売れ行きがよく、売上は前年同月を上回った。

服飾雑貨：好調を維持し続けている化粧品が牽引する形で、クリスマス需要のハンドバッグやアクセサリ類など幅広く伸長し、売上は前年同月を上回った。シーズン雑貨では、防寒アイテムの手袋やマフラー類が自家需要、ギフト需要ともに好調に推移した。

食料品：クリスマス商戦が盛り上がりを見せ、洋菓子が伸長した。また、おせちの予約販売は単価、数量と

もに前年より上昇し、売上を伸長した。

スーパー B 社

スーパーB社の12月の売上高は、前年同月を若干下回る結果となった。気温の低下とともに季節関連商材は堅調に推移したものの、迎春関連、年賀関連などの年末必需品の動きが低調であったこと等が要因である。

衣料品：12月前半の立ち上がりは、気温が高く苦戦するも、中旬から後半にかけては気温の低下もあり、暖かい素材の肌着や、裏起毛・裏ジャギー素材（毛布のような毛足の長い暖かい素材）のトレーナー・レギンスといった季節商材が好調に推移した結果、売上高は既存店では前年を上回る結果となった。

食料品：農産畜産では野菜相場が高騰し、春菊や白菜、販促が奏功した柑橘が売上を牽引した。またクリスマス商材である牛肉や割引販促を行った鶏肉も好調であった。水産では、前年はノロウイルスの流行から苦戦した牡蠣が今年は好調であった。また、年々落ち込みの大きかった予約おせちは既存店で前年を超えた。その結果、カテゴリー計では、既存店で売上高が前年を上回った。

住居関連：月を通して気温が低めに推移したため、カイロ、電気ストーブ、掛けふとん、厚地タイプのふとんカバー等が伸長した。一方で、前年販促が功を奏した空気清浄機は、売上を落とし、また正月用品や年賀関連等の年末必需品の動きが総じて鈍く、カテゴリー計で売上高は前年を下回った。

スーパー C 社

売上高：売上高は前年同月を上回った。衣料品では、気温の低下とともにコートやブーツといった冬物商材

や、力を入れている子供向け商品が売上を伸長した。食料品では、低気温により鍋商材が好調であったこともあり、相場高にもかかわらず、野菜の需要が堅調で売上を牽引した。また、酒類が好調で、特にギフト需要のある日本酒が堅調に推移した。カロリーや糖質オフ、添加物やアレルギーに配慮した食品は客からの評価が高く人気があった。住居・余暇関連商品では、据置型ゲーム機が一時期の不調から復活の兆しを見せ、クリスマス需要もあり好調に推移した。また、プライベートブランド（PB）を強化していた白物家電や、インフルエンザ流行による関連商品の売れ行きが好調であった。

顧客単価・買上点数：12月の顧客単価と買上点数はともに上昇した。PB商品の一部値下げや、野菜を8分の1カットにしたり、ばら売りをしたりすることにより、1点あたりの単価を下げ一方で、顧客の買上点数を上げることを徹底した。買上点数を上げるためには、売り場の衣・食・住の壁を取りカテゴリーごとに管理した。このような戦略が功を奏し、売上高の増加につながった。

冬シーズン商戦の動向：お歳暮については、自分用のギフト需要として購入する顧客がいる一方で法人需要は減少傾向にあり、全体的に緩やかな減少傾向にある。多様化する顧客ニーズに対する打出しが難しく、売上高は前年下回った。おせちは単価は前年と変わらず2万円程度の商品に人気も集中するも予約件数が前年より伸長したことにより売上は前年を上回った。一方、クリスマス商戦は日並びの悪さが影響し、前年より少し売上を落とした。年末の26日～31日の6日間は、年末セール、正月の帰省需要、正月準備のための商品などの売れ行きがよく売上高は前年を上回った。

（山田 麻由）

大阪府の消費に関する経済指標

※Pは速報値を表す (単位：百万円、台、%)

		29年						
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	
大型小売店計	販売額 全店ベース	163,980	139,673	139,542	147,382	157,632 P	200,793	
	(前年同月比、全店ベース)	1.6	2.3	5.9	1.6	3.6	P 2.2	
	(前年同月比、既存店ベース)	2.8	4.2	7.4	3.2	5.7	P 4.1	
うち百貨店	販売額	88,897	66,085	70,238	75,341	84,417 P	112,109	
	(前年同月比、全店ベース)	3.0	4.0	10.0	5.0	7.0	P 3.2	
	(前年同月比、既存店ベース)	4.8	7.3	13.0	7.9	10.3	P 6.1	
うちスーパー	販売額	75,083	73,588	69,304	72,041	73,215	P88,684	
	(前年同月比、全店ベース)	0.0	0.9	2.0	▲1.8	▲0.2	P 0.9	
	(前年同月比、既存店ベース)	0.5	1.6	2.2	▲1.2	0.8	P 1.8	
コンビニエンスストア 販売額及び店舗数増減	販売額 全店ベース	72,534	70,928	67,086	67,910	64,401 P	69,465	
	(前年同月比、全店販売額)	4.5	4.7	4.5	1.9	3.0	P 3.6	
	店舗数(前年同月比)	2.8	2.6	2.6	2.4	2.2	P 1.9	
乗用車新車販売	台数	18,020	15,153	22,491	16,423	17,107	17,277	
	(前年同月比)	2.0	▲0.2	5.3	▲1.8	▲6.9	0.4	
家電大型専門店販売		(前年同月比)	8.0	7.5	3.4	0.4	6.7	P 4.1

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニエンスストア販売額】経済産業省「商業連動情報」。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】経済産業省「商業連動情報」。